

令和7年度

森山小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①聴き合い、伝え合う力を伸ばす授業の充実
- ②学力向上の基盤となる学習規律・家庭学習習慣の確立

校長

久保 尚史

学力向上推進員

寺澤美智代

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

研究授業の事前研修や研究授業、学力向上研修における教員からの報告等、様々な機会を捉え取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○言語や計算等の課題に真面目に取り組み、基礎的、基本的な知識・技能の定着が図られている。 ●基礎的・基本的内容が多くなるにしたがって、学力の二極化傾向が見られる。語彙力にも課題が見られる。自らの学習状況について児童自身が課題意識を持って取り組むことができにくい。	・相手意識、目的意識を持って「話すこと・聞くこと」ができる。 ・基礎学習に集中して取り組み、言語や計算の基礎的、基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・日常生活に必要な語彙を習得し、適切に使うことができる。	・「話し方名人・聞き方名人」の取り組みを継続し、全校体制で実践・発表の機会を持ち、学習の土台である「話す聞く」力を培う。 ・スモールステップのぐんぐんテストやタブレット端末を活用したドリル学習を行う。 ・読書や新聞を読むことを通して、語彙力の向上を図る。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○スピーチ力が高まり、自分の考えを話そうとする児童や友達の考えをしっかりと聞こうとする児童が増えている。 ●他者の意見を聞き、自分の考えに反映したり反論したりできる児童が少ない。 ●課題解決に向けて、必要な情報や知識・技能を選択し活用する力やじっくりと思考・判断し、自分の考えを分かりやすく表現する力は、十分には育っていない。	・互いに考えを伝え合う活動を通して、友達の考えにつなげて、自らの考えを発表することができる。 ・目的や意図に応じて必要な情報を取捨選択し、他者と伝えあうことを通して、よりよい解決法を考えることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定するとともに、話し合いの観点を明確にしたり手引きやモデルを提示したりし、話し合い活動の充実を図る。 ・「なぜ・どうして」との問い返し学習を進め、対話的な学びのおもしろさを実感させる。 ・児童が必要な情報を取り出し、整理する活動の中で、比較・分類・関連付け等、様々な思考に取り組めるよう発問や指示を工夫する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組むことができる割合が高い。 ●家庭学習における丁寧さや苦手な課題への取り組み姿勢が低い。 ●自分でめあてを立てて学習に取り組むことや読書の習慣化に課題がある。	・苦手な事や難しい課題に対しても、粘り強く丁寧に取り組むことができる。 ・自分でめあてを立て、主体的に学習や読書に取り組むことができる。	・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」をもとにモデルを例示しめあてをもたせる。 ・外部図書館との連携や読み聞かせ、週１回の読書時間の確保や週末読書の推奨など読書活動を工夫し、読書環境を整える。 ・ポジティブな行動支援に基づき、児童の頑張ったことやできるようになったことを可視化し、伸ばしていく。			